

## ● 大阪教育大学附属天王寺小学校

# 総合的な学習の時間で学年共通の教材を制作。 2色プリントで子どもの理解を促す。

平成17年12月に2色デジタル印刷機の助成校となった大阪教育大学附属天王寺小学校。総合的な学習の時間に使用する児童向けの『ガイドブック』と『教師用朱書版』を制作しました。今回は、制作にあたっての工夫や教育効果について伺いました。

### 教育効果などから検討

創立から一三〇年という長い歴史を刻む大阪教育大学附属天王寺小学校（藤永芳純校長）。

「個が生きる学校」「自他の人格を尊重し、実践力のある子」を教育目標に、大阪教育大学と一体で、教育の理論と実際に関する研究を行っており、各学年三クラス、合計一八クラス七二〇名の児童が学んでいます。

2色デジタル印刷機による研究活動の中心となったのは、副校長の服部敬一先生でした。学校経営や教育効果の面から十分な検討が行われ、総合的な学習の時間で使用する児童用の『ガイドブック』と、教師の関わりや留意事項を示した『教師用朱書版』の制作に2色デジタル印刷機を活用することになりました。

### 学年共通の教材で課題を解決

総合的な学習の時間で使う学年共通の『ガイドブック』づくりは、同校で初めての取り組みでした。制作にいたったいきさつを服部先

生が語ります。

「本校では、総合的な学習の時間で内容よりも学び方を学ぶことをめざしてきました。具体的には、過程を大切にすると、能動的に働きかける、多面的に思考する、知識を概念的に整理する、創造する、の五つの力のうち一つを育成することをめざし、各学級で自由に単元を設定し、取り組んできました。自由に単元をつくれることはよいことですが、当然同じ学年でも学級によって活動が別々になります。たとえば、あるクラスではコンピュータを使った環境保護のポスターづくり、別のクラスではビデオを使った思い出の作品づくり、という具合です。先生によっても教え方にばらつきが出ます」

その結果、学年が進むにつれて、子どもに積み上げられる内容知や経験知がばらばらになってしまうことが課題でした。

「これを解決するためには、同学年の全学級が同じ単元を行うことが必要である、ということになりました。各学年共通の『ガイドブック』と『教師用朱書版』はそのための教材として生まれたのです」

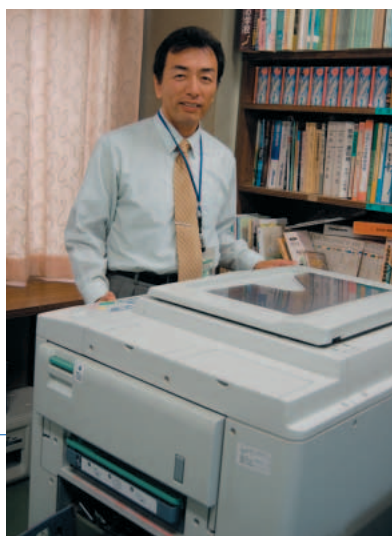
### 子ども自身が活用しながら学習

『ガイドブック』は子どもたち一人一人に配布され、学習の流れ、目当て（目標）、方向付けが明記されています。

また、これをもとに、子どもたちが気をつけるべき点、どう教えればいいのか、どう考えさせればいいのか、教師用の共通の指導書もつくられたのです。

### 2色を効果的に使って子どもたちの関心を高める

平成十一年度から行われていた総合的な学習の時間。すでに百以上の実践例があり、その中から八単元が選ばれ、『ガイドブック』

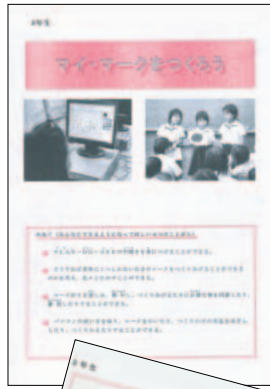


2色デジタル印刷機の前に立つ服部敬一先生

4年生の『ガイドブック』

5年生の『ガイドブック』

3年生の『ガイドブック』



6年生の『ガイドブック』



「これまたいへん分かりやすい。2色ならではの利点ですね」

ポイントが赤で表記されました。

これまでの取り組みの反省をもとに、教師への注意事項や教え方のポイントが赤で表記されました。

「これまたいへん分かりやすい。2色ならではの利点ですね」

と『教師用朱書版』が制作されました。

作成の際の留意点と2色の効果的な使い方について、服部先生は次のように言います。

「単元名は、すぐに目に飛び込んできて、子どもたちにくるだけでなく、面白そうだし、やってみたい、と思わせる工夫が大事です。見出しも全体の構成をひと目で分らせるよう、文字の大きさ、字体、色、下線などを考えました。

特に文字の色は黒だけでなく赤との組み合わせで使えることが非常に有効だと思います。また、強調したい語句には、字体を変えたり下線を施したりしますが、赤色を加われば、いっそう効果的だと分かりました」

手間とコストの面からも魅力

『ガイドブック』を使う子どもは四八〇名（三年生以上）。

「カラー化への流れは、世の趨勢ですが、こうした多枚数の場合、カラープリンターではコストも高く時間もかかるので利用するのは難しい。その点、印刷スピードやコストの面からも2色デジタル印刷機を使うメリットは大きいと思います」

今後は学芸会の台本など、2色デジタル印刷機を効果的に使う場が一層増えていくだろうと服部先生は話してくれました。



大阪教育大学附属天王寺小学校